

日 時 令和5（2023）年3月22日(水) 午後1時30分～3時

会 場 柏崎市立図書館 2階 会議室2

出席委員 三井田会長、田村副会長、本間委員、松田委員、前澤委員、池嶋委員、横田委員、丸山委員
(8人)

事務局 平田館長、小林館長代理、大木係長、田村係長

1 開会あいさつ(会長)

会 長 4年ぶりの行動制限のない春を迎え、これまで様々な工夫で運営してこられた図書館もこれからは、新しい対応が求められるところかと思う。より早く、良い環境での開館を願っている。本日は令和4年度の事業報告を中心に協議をいただく。よろしくお願いしたい。

2 報告・協議

(1) 報告事項

- ア 令和4年度（2022年度）事業報告について（中間）【資料（1）ア】
- イ 令和5年度（2023年度）予算の要望概要について【資料（1）イ】
- ウ 新型コロナウイルス感染症の対応について【資料（1）ウ】
- エ 「柏崎の花 -Spring Collection2023-」の実施報告について【資料（1）エ】
- オ 「ソフィアだより」のリニューアルについて【資料（1）オ】
- カ 利用者の意見要望及び対応について【資料（1）カ】

会 長 2報告・協議（1）報告事項ア、イについて事務局から報告をお願いしたい。

事務局 令和4年度（2022年度）事業報告（中間）【資料（1）ア】について説明する。学校との連携・支援の中子ども司書養成講座は、昨年度まで1校の実施だったが今年度は2校で実施した。キャリア教育講座は、柏崎高校の進路選択で図書館をどのように活用できるか、生徒を迎えて講座を行った。教員向け教育センター講座は、新規に行ったもの。ビブリオバトルと本の修理について指導を行った。ブックスタート事業では、ふれあいブックスタートを「えほんのへや」で1か月に1回開催した。情報発信とサービスの向上では、図書館として、これまでは多くなかった市 Twitterでの企画展や特設展示紹介の配信を積極的に行った。

展示会、読書イベント・講座等の開催は、「柏崎の花 -Spring Collection2023-」として今年も開催した。「わたしの尾瀬写真展」は、NHKの主体事業だが今年度で終了となる。

「駅前公園にキッチンカーがやってきます！」は、駅前公園の一角を借りて移動図書館を開催した。80名近い方に読み聞かせや現地で本を見てもらえて好評だった。新規事業の図書館謎解きイベント「ひゃっか王からの挑戦状」を3回実施した。1階特設コーナーでの特設資料展示は例年25回程度だったが、情報発信の場として42回行った。

施設や整備の修繕・保守管理では、管内非常放送設備の修繕と電話設備の入替えを行った。また、蔵書点検の期間に合わせ、受電設備の改修工事を行った。

次に、令和5年度予算の要望概要【資料（1）イ】について説明する。予算の重点化対象の新規・拡充事業として、事務室OAフロアの改修工事を行う。そのほか、車庫のシャッター、除雪機の入替えを予定している。

続けて、新型コロナウイルス感染症の対応【資料（1）ウ】について説明する。3月13日からマスク着用が個人の判断となったことにより、徐々に制限緩和を行ってきた。今

後5月8日からの2類から5類への分類変更の際には、さらに制限緩和を行いつつ感染対策もとりながら、感染拡大前の状態に戻していく。

企画展「柏崎の花—Spring Collection 2023—」【資料（1）エ】の実施報告を説明する。昨年度より若干期間が短かったが、80点ほど作品を出すことができた。入場者数1,507名、うち407人からアンケートを回収し、回収率は26.6%だった。皆さんの興味、関心のあったことが伺えた。よかったとある一方で作品数が少ない、昨年より小規模なのが残念などの回答があったので来年度に生かしたい。

次に「ソフィアだより」のリニューアル【資料（1）オ】について説明する。令和5年度の4月発行からリニューアルする。文字が小さい、旧態依然としているなどの批判を受け、大幅な内容の変更を行ったもの。主なところは、モノクロをカラーに、月間を年4回の季刊号にし、利用者へのインタビューや写真を多用するなどである。親しみのある紙面にしたい。また、これまで掲載していたもよおしもの案内などは別に作成する。

利用者の意見要望及び対応については、意見要望が28件あった。飲水器の再開と「別冊NHK今日の健康シリーズ」を配架することができた。

会 長 報告事項について、ずいぶん斬新な改革も示されているところ、御質問・御意見等があればお願いしたい。

委 員 新しいソフィアだよりに使われる用紙の種類はどうなるのか。また、今までは穴を開けて綴じることを前提にしていたが今後は見開きか。

事務局 今後は、見開きで写真や画像を多く配置していく。

委 員 「ソフィアだより」は、他の施設などにも配置しているのか。駅や市役所はどうか。

事務局 配置しているところは図書館のみである。

委 員 配置場所を増やしてはどうか。

事務局 公共施設へは送付している。配置や部数を増やすことは、予算に関係してくるが、できる範囲内で検討したい。

委 員 予算は限られることと思うが、図書館に足が向かない方や来てほしい方など、届けたい人に届くよう工夫してもらいたいことと配布先と部数の管理をやってほしい。

事務局 重複のないよう管理したい。

委 員 資料（1）ウで「返却資料の清拭」とあるが、セルフ式図書除菌機は使用しないのか。

事務局 事務局では、本が返ってきたときに返却処理をかけた後、清拭する。セルフ式図書除菌機は、利用者が借りるときに除菌してもらうもの。返却数も多いため、一冊毎の除菌機での対応は難しい。セルフ式図書除菌機の配置はわかりやすいよう工夫する。

（2）協議事項

ア 令和5年度（2023年度）事業計画について（概要）【資料（2）ア】

イ 意見交換

会 長 では、続いて（2）協議事項の説明をお願いします。

事務局 令和5年度（2023年度）事業計画【資料（2）ア】について説明する。運営基本方針は資料のとおり。主な重点事項は、（1）第二次子ども読書活動推進計画の施策の展開に取り組むと同時に、令和6年度までの計画のため、次の計画を準備する。（3）若者を中心とした新たな利用者増を目指すため、ツイッターなどの情報発信を引き続き行っていく。（6）老朽化した設備などを今後も継続して計画的に改修していく。（7）コロナ禍前の状態に戻していく。

事業の中では、（3）図書館協議会の開催を3回とする。（10）「中村文庫展」の開催。また、記載はないが、館外に出て、図書館をPRする機会を捉え、参加したい。

会長 　　ここまでで、御質問や御意見があればお願いします。

事務局 　　追加の情報提供として、来年度マイナンバーカード利用での貸出しを考えている。

会長 　　来年度というのは、この4月からのことか。

事務局 　　早めの利用を目指したい。

委員 　　来年度の「柏崎の花 -Spring Collection2023-」は、主催ではないような説明があったが、このテーマでの開催はされるのか。

事務局 　　文化・生涯学習課主催での開催を予定している。会場は図書館である。

委員 　　感想として、ケース内の展示は、中にある名称や説明の文字が小さくて見えづらい。

会長 　　他にいかがか。

委員 　　今年の当市の蔵書点検の期間に、ラピカの図書館が、工事のため一か月間休館だった。近郊の図書館の休みが重なるのは相互利用の点からもどうなのか。双方の図書館で話をする機会はあるのか。

事務局 　　今後は、休館日の情報提供などを行っていききたい。

委員 　　柏崎市のお宝である「小竹コレクション」の実物を見る展示を行ってほしい。花の展示でも関連したものがあれば活用できるのではないかと感じた。

事務局 　　意見交換のところではあるが、ここで電子図書館サービスについて意見をいただきたいので、参考資料により説明する。県内では、燕市、新潟市、三条市が開始している。

委員 　　方向性は、全体として導入の方向かと思うが、決定するためには利用者に問うとか、前例があるわけだから、実績をみてもいいのでは。

会長 　　他にいかがでしょうか。

委員 　　今は自分で車を運転して図書館へきて、読みたい本を探すことができるが、運転できなくなる年齢になって、はたしてパソコンなどのシステムを使ってまで本を読もうとするか疑問である。個人的には紙のほうがいい。

会長 　　世代の違う方の御意見はいかがでしょう。

委員 　　いずれ、導入されると思う。学校現場では、小学校3年生以上が日常的にタブレットを使っている。調べ学習に利用し、朝読書は本の活字である。初期導入は壁が多いと思う。すでに導入済みの自治体の様子を聞くことも一つの判断材料では。

会長 　　他にいかがでしょうか。

委員 　　図書館まで来られない方のためにはいいと思う。いずれ導入されると思うが、図書館にとっては大きなことである。お金がかかるけれど将来は必要、でも他の予算を削らなければならないという説明であるが、新規に予算を獲得できないのか。

会長 　　予算の話についてはいかがでしょう。

委員 　　業務の省力化による人件費の削減などのメリットと対経費の説明は来年の話なのかもしれないが、来年度の予算の削減状況からすると、財政に対する導入の話は難しい気がする。一方、共同導入しないのは経費がかかるとかであれば、早いほうがいいかもしれない。

委員 　　後で参入することも可能か。また、特別な機械の導入が必要なのか。

事務局 　　可能である。

委員 　　自分が抱いていた「電子書籍」のイメージと違う。高額でありながら、50回読まれると消えるかもしれないということが意外であり、利用数が伸びないことも理解できる。図書館に来られない人に本当に貢献できるのか疑問である。

事務局 　　「サブスクリプション」型により、繰り返し何人も同時に読めるなど、サービスの内容もどんどん変化しているので、今後もっと使いやすいものになると思う。

会長 　　若者の読書人口の取り込みとはあるが、すでに電子書籍のような形のものを読んでいるような状況である。流れは電子書籍の導入になると思うが、紙媒体が無くなるとは思え

ない。様々な英知を結集していただき、導入の判断を行っていただきたい。

(3) その他

委員 書庫に入っている郷土資料の入替えをお願いしているが、なかなか難しいようである。理由は何か。

事務局 郷土資料は保存を第一としているため、貸出しができない運用をしているが、複本があるものについては開架に設置している。郷土資料から貸出しできる郷土資料にするためには、登録を一からやり直す必要があり、一度除籍して一般図書にしてラベルを貼りなおす、バーコードを貼りなおすことが必要となる。なかなかすぐには難しいが検討していきたい。

3 閉会あいさつ（副会長）

副会長 ウィズコロナの生活にも少しずつ慣れてきて、図書館にも活気が戻ってきた一年とみえた。「柏崎の花—Spring Collection 2023—」では、様々なジャンルのものが展示された。普段図書館を利用しない方が訪れる機会が必要。しかし、通常業務と違った企画を実施することは職員の御苦勞があつてのことと思う。皆様には引き続き図書館を温かく見守ってほしい。

事務局 これで令和4（2022）年度第2回柏崎市立図書館協議会を終了する。ありがとうございました。